

スキンケアの目的が美容へシフトしたために

-スキンケアの進化が 200 年遅れた-

19 世紀に、スキンケア製品がより洗練され、美容目的に重点が置かれるようになり、スキンケアの目的は健康維持から美容のためのケアにシフトしました。これにより、エマルジョン化粧品に含まれる合成界面活性剤や、ライフスタイルの変化によるストレスや環境汚染などの外的要因が肌に影響を与えるようになりました。特に、合成界面活性剤が肌トラブル増加の大きな要因となりました。

しかし、時代が進むにつれて、美しい肌は魅力的であるという認識が広まりました。都市化や働き方の変化、個人の自己表現や自尊心の重要性が高まり、スキンケアも健康より美容が重視されるようになりました。消費者は、肌トラブルが起きている肌でも使えるスキンケア美容化粧品を求めるようになりました。

『単なる美容化粧品』から『肌トラブルが起きている肌でも使えるスキンケア美容化粧品』、この消費者ニーズの変化を、企業は新しいビジネスチャンスに捉えました。肌トラブル増加は、企業に肌トラブルが起きている肌でも使える化粧品、美容目的に重点を置いたスキンケア化粧品の開発に邁進する新たなビジネスチャンスを与える転換点にもなったのです。

企業にとって、商品化の答えは簡単でした。それは『トラブルを隠す: Conceal』ことです。つまり、肌トラブルを即効的に『ある』ことを『ない』ことにする、肌トラブルを『Conceal』隠すことで美容目的を実現するスキンケア製品の開発に力を入れたのです。肌トラブルを改善するのではなく、隠すという、企業優先のビジネスモデルがこの時完成しました。本来は、肌トラブル改善のスキンケア化粧品の開発に邁進すべきでありましたが…

現在、多くの企業は肌トラブルを『隠す: Conceal』から『なくす: Reduce』ことに力を入れています。しかし、美容第一のスキンケアビジネスモデルは変わりません。このような企業優先のビジネスモデルが 200 年続いています。美容のためのケアにシフトしたスキンケアの目的が、現在に至るまで消費者優先の『肌の健康』に戻ることはありませんでした。

しかし、今、そのビジネスモデルが崩れてきています。美容を追求するならまず肌の健康を、あるいは肌トラブルを改善し、肌を健康『普通肌』にしてからという考え方に代わってきています。まさに、19 世紀から続いてきた表層角質ケアから、スキンケア本来の目的である「深層角質スキンケア(皮膚バリアケア)」、肌の健康を第一に考えるスキンケアに戻る流れになっています。

今の時代は『健康』がキーワードとなっています。スキンケア業界もその時流に適応して変わっていかなければなりません。スキンケアでは、肌の健康も美しさもどちらも大切です。実現する方法論が問われています。美容が先か健康が先か、健康が先です。まず肌を健康にし、トラブルのない『普通肌』を実現します。その後美容を追求する。現代・未来におけるスキンケアとは、そういうケアではないでしょうか。

スキンケア進化は 200 年遅れましたが、スキンケアの起源は、紀元前 4,000 年頃、農耕民族が定住し始めた頃です。スキンケア進化の歴史から見れば、ほんのちょっと寄り道して、本道に戻ったということでしょうか。